

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16666

研究課題名(和文) 障害者の社会参加を目的とした音楽活動における音楽形態に関する研究

研究課題名(英文) Research on Musical Style in Music Activity that Aims for Social Participation of People with Disabilities

研究代表者

沼田 里衣 (Numata, Rii)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特任准教授(テニュアトラック)

研究者番号：10585350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、障害者とそうでない者が参加する音楽活動において、物理的環境、社会文化的背景、人的リソース等の関連からどのように即興音楽の形態が生み出されているのかを調査・分析するものである。国内外の障害者を含む芸術活動を行う団体を視察した結果、複層的に価値観が存在できるような具体的な環境設定の方法や即興表現形態を見出すことができた。こうした障害者の関わる表現は、芸術が福祉かという二項対立的な観点からしばしば議論されるが、即興による音の対話という側面が、そうした二項対立を超えて、倫理的観点と美的観点の双方を往復しつつ、支援と共にある障害者の主体的表現を生み出すことを可能としていることが見出された。

研究成果の概要(英文)：In this study I explored how improvisational music is created in relation to the physical environment, sociocultural context, and available human resources in music activities for people with or without disabilities. Examination of Japanese and international art groups that include people with disabilities revealed unique styles of improvisational expression and ways of involving people with diverse backgrounds. By considering the relationship between the ethics and aesthetics manifested in this improvisational expression, it was found that the dialogical aspect of improvisational music provided a way for disabled people to express themselves freely that was both art and welfare.

研究分野：音楽療法

キーワード：コミュニティ音楽療法 コミュニティ音楽 即興音楽 臨床音楽学

## 1. 研究開始当初の背景

障害者の芸術を用いた社会参加の問題は、近年の福祉社会の意識の高まりから、ますます期待が高まっている。音楽の領域における活動は、日本においては美術と比較すると少ないが、主に教育、福祉の領域で導入が進んでおり、コミュニティ音楽、コミュニティ音楽療法、アートマネジメント等の文脈で活動のあり方が模索されている。

応募者は、平成 22-23 年度研究活動スタート支援「コミュニティ音楽における創造性に関する実践的研究—『臨床音楽学』の構築に向けて—」、平成 24~26 年度若手研究 (B)「コミュニティ創成における即興音楽の役割」、及びそれに先立つ応募者の音楽療法における即興音楽に関する研究において、音楽の創造性や即興性の観点から、障害者の社会参加を目的とした活動について考察を進めて来た。その結果、自発性や新鮮さが重視される即興音楽の良さを追求すること自体が、コミュニティにおける良好な関係性をもたらすことが観察され、価値観の差異を包含するために即興音楽の形態が適していることを指摘した。音楽の即興性は様々な形態の音楽にみられるが、このような音楽の機能に着目した研究を続けるなかで、多様なジャンルの表現形態との関連において、コミュニティのあり方を考察する必要性があるのではないかと考えるに至った。

こうした問題意識は、筆者が実践研究を行う上でも顕在化した。筆者は、2005 年に音楽療法家、音楽家、知的障害者が共に即興演奏を行うことにより、新しい音楽の地平を開拓することを目標としたプロジェクト「音遊びプロジェクト」(明治安田生命社会貢献プログラム「エイブルアート・オンステージ」参加事業)を企画し、2006 年度博士論文『音楽療法における創造的活動について—セラピストとクライアントの共働による音楽』において音楽療法における新たな治療観を提示した。本活動は、その後も継続しており、様々な試みを通して生まれた音楽のあり方を舞台上で発表し続けてきた。その結果、その活動は、ドキュメンタリー映画が公開され、NHK E テレで紹介されるなど、福祉、芸術や教育などの各方面からインパクトを持って受け入れられた。しかし、参加希望者が増え続けていたため、2014 年 6 月より音楽のみに特化しないコミュニティ創成プロジェクト「おとあそび工房」を企画し、他地域での普及活動を開始した。そのなかで、即興表現に限定せず、個々の持つ多様な音楽形態に着目し、地域社会の社会文化的資源、人的資源を考慮し、目的に合わせた音楽形態の選出が必要であると考えに至ったのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、障害者とそうでない者が参加する音楽活動において、物理的環境、社会文化的背景、人的リソース等の関連からどのよう

に音楽形態が選択、あるいは創造されているのかを調査・分析し、具体的な音楽活用手法を検討・提案につなげることを目的とする。音楽が多様な価値観を包含するコミュニティを創成する上で果たす役割は大きい。技術や価値観の差を超えて共同で音楽活動を円滑に進めるための具体的な音楽的方法は確立されていない。本研究は、社会的弱者を含むコミュニティにおけるアートによる可能性を、具体的に提案しようとする試みであり、障害者の社会参加の道を模索する現在のわれわれの社会において大きな意義があるものと考えられる。

具体的には、①障害者を含むコミュニティにおいて用いられている様々な表現形態について、コミュニティのあり方やその地域の社会文化との関連から詳細に観察・分析し、②そこで得られた知見をもとに、新たなコミュニティを考える際の具体的な方法論を検討し、提案する。その際に、コミュニティ内部のみならず、その背景の社会文化状況や福祉制度等の制度も同時に調査し、コミュニティと個々の参加者の目的と音楽形態の連関に焦点を当てる。これにより、技術や価値観の差異を包含するコミュニティ形成のための具体的方法を見出すことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、①調査研究、②実践研究、③得られた知見の分析から理論化へ向けた研究の 3 つの側面から成る。

調査研究においては、知的障害者とそうでないものが関わる様々な文化圏におけるコミュニティを選定し社会文化背景や制度上の問題も同時に調査する。実践研究においては、応募者が運営する「音遊びの会」(月二回の音楽ワークショップと年数回の舞台公演)、及び「おとあそび工房」(月一回の表現ワークショップ、年一回の公演および振り返りの会)の活動を観察し、音楽形態の創出や選定に関連する要因を抽出する。これらの調査から一時資料を作成し、社会・文化背景との関連から音楽の選定の過程を分析する。また、関連する実践の調査のため、コミュニティ活動が活発なイギリス・ノルウェーにおける実践家・理論家と意見交換を行う。文化に埋め込まれたコードを明確にするために、他の文化圏における同様の活動グループと積極的に交流し、方法や考え方の違いについて比較検討する。

以上の分析をもとに、理論的検証を行い、具体的方法の提案を行う。理論化に向けては、筆者のこれまでの研究、コミュニティ音楽における創造性に関する実践的研究、公共性の視点からアートの技術とコミュニティについて考察した研究をベースに、多様な音楽ジャンルに関する新たな知見を参考とする。コミュニティと音楽について多角的に考察するために、コミュニティ論、社会学、障害学、音楽学などの関連の諸学を取り入れ、領域横断的に考察する。

#### 4. 研究成果

(1) 調査研究においては、初年度に国内の障害者を含む芸術活動を行う団体を視察し、共著『障害のある人の創作活動 実践の現場から』の一節「演奏が広げる人のつながり」において発表した。いずれのケースにおいても、それぞれの事情に合わせて具体的な環境設定が様々に考えられ、独特の表現形態が生まれていることが観察された。その工夫は、多様な関係性を紡ぎ、複層的に価値観が存在できるように考えられていた。

研究対象としている筆者が主宰する「音遊びの会」と「おとあそび工房」においては、まず前者の活動について、芸術、福祉、教育などの領域を超えたコラボレーションや、障害の有無のみならず年齢や国籍も超えた出会いを可能にする音楽づくりの報告として『The Otoasobi Project: Improvising with Disability』にまとめ、特定の演目に着目した分析を「障害者を含む音楽グループによる舞台活動」にまとめた。支援が必要である障害者の主体的表現は、倫理的観点と美的観点の双方を往復する形で考える必要があるが、芸術的観点か福祉的観点かという二項対立的な観点を超えた演目形態の可能性が示された。

また、共著「ソーシャルアート 障害のある人とアートで社会を変える」の一節「異質な価値観を楽しむ即興音楽 音遊びの会(神戸市)」においては、即興による音の対話という側面が、障害者を含む新たな関係性を考えるための社会実験の場となっていると結論づけた。後者の「おとあそび工房」の活動を含めた報告は、即興演奏の形態の特徴を共生の美学という観点から即興表現の成り立ちについて考察した内容を、「日本音楽即興学会誌第2号」に『動いている音楽-ジル・クレマンの庭の体験から』というタイトルでまとめた。

(2) 実践研究においては、「音遊びの会」においては、お笑いという言語表現を取り入れた他団体とのコラボレーションによる新たな表現形態を創出し、舞台公演という形で提案した(写真1)。しかし、演目創出に当たって言葉による対話の場が不足した側面があり、組織運営の方法を再考する結果となった。並行して行った「おとあそび工房」の活動においては、組織運営のうち、参加者と外部の実践家・研究者を交えてオープンなディスカッションの場(写真2)を継続的に設けることを重視したことにより、参加者が自発的に即興音楽活動の社会的意味や意義を考え、考察をSNSやホームページなど発表するとともに自身の活動で生かす様子が観察された。



写真1 「音遊びの会」による新喜劇とのコラボレーションによる舞台「音みたいな顔してる」



写真2 「おとあそび工房」による第4回公演「マルシェだなす！」の振り返りの会の様子

(3) 以上の即興音楽形態の調査と実践の分析を通して、理論研究についてもまとめた。その主要な成果は、コミュニティ音楽療法の理論的基盤である「健康ミュージッキング」の再検討を行い、臨床哲学の議論を参照した議論を『臨床音楽学研究試論:「音遊びの会」の事例を通して』という題目で「日本音楽療法学会誌」に投稿した。これは、即興音楽の様々な形態を創出する過程とそれに関する対話を持つ意味についての理論基盤について論じたものである。この研究成果は、「日本音楽療法学会第16回近畿学術大会ラウンドテーブル」及び「日本音楽療法学会第16回近畿学術大会講習会」においても成果を発表した。この研究に関連し、「健康ミュージッキング」の理論に関わる重要な文献として、『絆の音楽性』の第16章「コミュニケーション・ミュージカルティとコラボレイティブ・ミュージッキングのはざまーコミュニティ音楽療法からの展望」を単訳した。

以上の研究成果は、YouTubeにて公開された講演「美しい音楽とは?」(TEDx KOBE 2016)を含め、様々な講演やワークショップを通じて、特別支援学校の教員や障害者施設職員等を含む一般の多くの人々に還元する活動を行った。また、カナダ、イギリス、フランス、タイ、フィリピン等の活動調査とともに研究発表を行

い、文化的背景の異なる地域での調査研究と意見交換を積極的に行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 沼田里衣、「研究報告：動いている音楽-ジル・クレマンの庭の体験から」日本音楽即興学会誌第2号、pp. 12-29、査読無、2018年3月31日
- ② 沼田里衣、臨床音楽学研究試論：「音遊びの会」の事例を通して、日本音楽療法学会誌2017年第17巻2号、査読有
- ③ Kumi Shimada, Hiroko Miyake, Rii Numata, "Social Inclusion and Exclusion through Community Music Therapy in Japan" in Music Therapy Today: Special Issue 15. World Congress of Music Therapy Proceedings Vol. 13, No. 1, pp. 505-506, World Federation of Music Therapy, 査読無, Jul 4, 2017
- ④ 沼田里衣、「障害者を含む音楽グループによる舞台活動」関西都市学研究、創刊号、2017、査読無、18-23
- ⑤ Rii Numata, 'The Otoasobi Project: Improvising with Disability' in "Music and Arts in Action vol5, nol", 査読有, 2016, 45-51

[学会発表] (計12件)

- ① 講師：沼田里衣、対談：石村真紀、多様な場面での音楽療法における関係性を考える～個人セッションからコミュニティ音楽療法まで～、日本音楽療法学会第16回近畿学術大会講習会、2018年3月25日、武庫川女子大学
- ② 企画：後藤浩子、話題提供：沼田里衣、濱谷紀子、三浦美弥、音楽療法における音楽について語る、日本音楽療法学会第16回近畿学術大会ラウンドテーブル、2018年3月25日、武庫川女子大学
- ③ Rii Numata, A Study on the evaluation of Improvisational performance: From the viewpoint of 'Observation', URP Forum, 2018. 3. 15, Universitas Gadjah Mada, Indonesia
- ④ 企画発表：沼田里衣、嶋田久美、三宅博子、ゲストスピーカー：池田真典、鈴木励滋、アート・存在・仕事-社会包摂の議論を出発点として、分科会、アートミーツケア学会2017年度大会、2017年12月17日、京都市立芸術大学
- ⑤ 沼田里衣、「社会」を聴くということ-音楽と社会のコミュニケーション、第1回共創学会年次大会、2017年12月10日、早稲田大学
- ⑥ Rii Numata, Social Inclusion and

Exclusion through Community Music Therapy in Japan, Round Table, Presenters: Kumi Shimada, Hiroko Miyake, Commentators: Gary Ansdell, Yu Wakao, Chair: Rika Ikuno-Yamamoto, 15th WFMT World Congress of Music Therapy, 2017. 7. 6, Tsukuba International Congress Center

- ⑦ Rii Numata, Performance by Creative Music Groups Including People with Disabilities, The 15th Urban Research Plaza's Forum(国際学会), 2017年03月07日, Chulalongkorn University, Bangkok(Thailand)
- ⑧ Rii Numata, The Role of Musical Improvisation- towards building an inclusive community-, 大阪市立大学都市研究プラザ10周年記念国際シンポジウム(国際学会), 2016年09月23日, 大阪国際交流センター小ホール(大阪府大阪市)
- ⑨ 沼田里衣、障がい者を含む音楽グループによる舞台活動——参加の倫理と美的価値観を巡って、民族芸術学会西支部例会、2016年09月17日、甲南大学(兵庫県神戸市)
- ⑩ Rii Numata, Who considers it as a musical expression? From Creative Music Activity with People with Learning Disabilities towards Inclusive Community, The Pebbles in the Pond SocArts at Ten(招待講演)(国際学会), 2016年05月13日, University of Exeter, Exeter (England)
- ⑪ Rii Numata, Case Study Presentaion1B Improvisational Music Community with People with Learning Disabilities and Musicians in Kobe, The 10th International Conference of Asian Arts Management Manila(国際学会), 2016年03月17日, Hotel Benilde, Manila, Philippines
- ⑫ Rii Numata, The Otoasobi Project: Musical Improvisation to create new values for people with and without disabilities, 2015 Guelph Jazz Festival Colloquium(国際学会), 2015年09月17日, Musagetes, Guelph, Canada

[図書] (計2件)

- ① 服部正編著、沼田里衣他、あいり出版、『障害のある人の創作活動—実践の現場から』(担当節：「演奏が広げる人のつながり」)、2016、175ページ(内7ページ担当)
- ② たんぼぼの家編、沼田里衣他、学芸出版社、『ソーシャル・アート 障害のある人とアートで社会を変える』(担当節：「異質な価値観を楽しむ即興音楽音遊びの会(神戸市)」) 2016、299ページ(内15ページ担当)

〔その他〕

- ① 『絆の音楽性』第15章「戦争中・紛争後の地域の子供達のための音楽ー精神生物学的アプローチ」(共訳) pp. 315-338、第16章「コミュニカティブ・ミュージカリティとコラボレイティブ・ミュージキングのはざまーコミュニティ音楽療法からの展望」(単訳) pp. 339-360、音楽之友社、2018年3月

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

沼田 里衣 (NUMATA RII)

大阪市立大学・都市研究プラザ・テニユア  
トラック特任准教授

研究者番号：10585350